

PWE (Paddy and Water Environment) 現状と展望
Present situation and perspective of PWE (Paddy and Water Environment)

凌 祥之, 溝口 勝

Yoshiyuki SHINOGI, and Masaru MIZOGUCHI

1. はじめに

PWE(Paddy and Water Environment)は2003年1月刊行以来10年が経過した。この間、1昨年には念願のIF (Impact Factor) を取得し、昨年にはその値が1.0を超える値となり、安定的な地位を確立しつつあると言っても過言ではない。

しかし、細かいところでは幾つもの問題点がある。ここでは、例年のようにPWEの現状を総括して紹介し、現時点の問題点を踏まえ、今後を展望してみたい。

2. PWEの現状

IFについては毎年7月頃に公表され、PWEは初年度(2012年)0.986の値を取り、昨年は1.025の高い値を獲得した。これは、農業工学系では12誌中7番であり、農学系では80誌中41番目と、概ね満足のいく数値であると思う。当該誌が水田を主対象としており、アジアが投稿者や閲覧者(閲覧者で言えば64%がアジア太平洋地域)の中心という状況を考慮すれば、大健闘と言えるのではないだろうか。

昨年のPWEへの総投稿数は197件であり、2014年6月現在も概ね同じような投稿数の推移を示している。これは、2011~2012年間の2年間分の年間投稿数に殆ど等しい。2013年度は56編の論文を1冊に合冊し(624ページ)、IFの向上が期待できるとの理由で、年当初に発刊した。2014年度は、特集号を除き、4巻とSpringer社のご厚誼で2巻の増刷を許諾頂き、昨年相当の論文数が印刷できる運びである。2013年は研究領域を厳しく設定したために、Reject率は著しく低かったが、大体50%程度である。初回投稿から大体250日程度でAccept判定がでており、Rejectの判定は初回投稿から70日程度でなされている。なお、印刷については更に掲載まで期間を頂いている(Table1参照)。

Table 1 PWE への投稿状況

Submissions	2011	2012	2013	2014 (-2 Jun)
Total Submitted	114	88	197	78
Total Decisoned	90	72	198	60
Accept	59	44	62	31
Reject	31	28	136	29
Acceptance Rate	66%	61%	31%	52%
Rejection Rate	34%	39%	69%	48%
Average Days to Final Disposition Accept	166	192	289	211
Average Days to Final Disposition Reject	88	154	59	85

いわゆるSTAP細胞事件以来、各出版物に対しても著者の研究者倫理責任を厳密に明確化する必要が顕在化した。PWEでも投稿者の研究者倫理に関して、投稿時のInstruction for Authorsに道義的責任の確認事項を追記した。但し、論文の内容の詳細にまで精査、確認をするのは容易ではない。

PWE編集部では、2014年からチーフマネージングエディター(CME)に韓国のJing Yong Choi

氏を迎え、体制の強化を図っている。現在、溝口 Editor-in-Chief の下、凌と共同で編集作業を行っている。原則、Cho 氏が査読管理を行い、凌が査読に関する著者や Editor などの調整や管理および適正な体制の改善を行っている。

3. PWE の問題点

これまでの問題は、PWE の投稿資格や財政基盤の問題である。PWE は PAWEES の正式な技術出版物であるにもかかわらず、PAWEES の会員資格が確定していない状況では、投稿資格が曖昧である。日台韓の 3 か国を除けば、原則無料で投稿が可能である。投稿者には大きなメリットがあるが、経営上は当該 3 か国の有志や支援機関の補助で賄われているのが現状で、経営上は常に苦戦を強いられてきた。なお、日台韓 3 か国でも経費負担の仕組みは異なる。

またここ数年 PWE への投稿数が急増し、査読件数が増え、査読体制が疲弊気味である。これまで Editor の専門領域に関するデータベースの再構築と確認を行うなど、適正な Editor に編集や査読が行くような改善を行い、概ね奏功しているように思える。しかし、内容の問題で一部の Editor や査読者に多大なご尽力を頂くケースも増えている。一方、印刷掲載まではある程度の期間を必要とし、最新の研究成果の排出が、印刷媒体としては必ずしもできていない。

また、なかなか各国のマネージングエディターとの交流が進まず、編集や査読体制の確立や更新・改善ができていない。

4. PWE の展望

PWE は昨年度 1 報(正確には 2014 年発刊)、今年度 1 報の特集号を発刊する予定である。これにより、論文印刷数の増加が可能となった。引き続き特集号の確保を進めていく必要がある。更に、インパクトファクター向上のために、ゲストエディターの招へいおよびレビュー集を集めた特集号の発行などを検討している。これらの導入により、IF の持続的向上を図りたい。

一方、PWE の経営戦略としては何らかの形で購読者やサポートする国を増やしたり、責任著者に少額でも投稿料を頂戴して、持続的な経営改善を図る技術的、組織的な対応が必要であるように思う。

同時に、より質が高い論文の収集も必要であり、積極的な広報と勧誘は常に必要である。このためには編集部として何を行わなければならないか、編集部内の意見調整と企画立案などのアクションが必要である。

5. おわりに

科学技術雑誌は多数あり、常に淘汰の危機を抱えている。経営体制が盤石な学会などは容易にオンライン化に進め、原則無料で投稿と閲覧ができる。重なる研究分野の他誌とは、ある意味で競争をしなければならない。投稿も掲載も全く無料(一部)でどこまでできるか。完全オンライン化で何が問題か、などなど多種多様な問題を抱えているのが現状である。

PAWEES の繁栄と絶え間ない技術革新のために PWE の担っている役割は甚大である。少なくとも、品質の高い論文の投稿を待つだけでなく、積極的に拾い上げていく努力も必要であろうし、それを査読で支える、縁の下の力持ちも必要である。

手作りで、皆が支えると言う意識や支援が無ければ、読者だけでなく投稿者にも容易に見捨てられる。これを肝に銘じて、高い品質の持続的な発展をめざし、一助になればと尽力したい。

最後に、PWE の現状を整理して情報提供いただいた Springer Japan Co. Ltd. の Lee Mei Hann 氏には記して謝意を表します。